

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(音楽)／山根
秀憲

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

答申の中で「学び続ける教師像」を確立する必要がある、と述べられている。これを実現する一つの方策として、生涯を通して地域社会の表現活動への参加が有効であろう。管楽器分野の教員にとって特に関連深いのは、地域の吹奏楽活動である。この活動では地域社会の多様な職業や年齢構成の人々との交流の中で、音楽を中心としたコミュニケーションが展開されている。また、音楽に関する専門知識の獲得に大きな力をもっている。このような場に生涯にわたって係っていけるような基礎的・基本的な知識・技能の習得と、多様な人間関係を結んでいく力を育てる必要がある。関連する授業での留意点は次の通りである。

- ①授業内容 学生の希望する楽器の選択ができるだけ可能となるように努め、個人個人の学習段階に応じた課題に基づいて授業を行う。アンサンブルにおける互いの役割を理解できるようにする。
- ②授業方法 単に楽器の演奏が上達するだけでなく、音楽の流れや課題への取り組みについて、具体的な指導場面を想定し、言葉で説明することができるような場面を、これまでと同様に設定する。アンサンブルの練習中に、他者への音楽的なアプローチのみならず、音楽の専門用語を用いた言葉によるコミュニケーションの機会をこれまで以上に設ける。地域の吹奏楽活動で演奏されている曲を可能な範囲で取り上げる。
- ③成績評価 選択した楽器の演奏能力だけでなく、ピアノ伴奏者とのコミュニケーションや、毎回の授業における、言葉で説明の様子も加味して評価を行う。

2. 点検・評価

- ①授業内容 学生の希望する楽器の選択ができるだけ可能となるように努め、個人個人の学習段階に応じた課題に基づいて授業を行った。アンサンブルにおける互いの役割を理解できるよう、毎回の授業でアンサンブルし、各パートの役割に注意を向けることができるようにした。
- ②授業方法 単に楽器の演奏が上達するだけでなく、音楽の流れや課題への取り組みについて、具体的な指導場面を想定し、言葉で説明することができるような場面を、これまでと同様に設定した。アンサンブルの練習中に、他者への音楽的なアプローチのみならず、音楽の専門用語を用いた言葉によるコミュニケーションの機会をこれまで以上に設けている。地域の吹奏楽活動で演奏されている曲を可能な範囲で取り上げた。毎回の授業で、学生に交代でピアノを担当させ、アンサンブルをリードする方法を具体的に指導した。
- ③成績評価 選択した楽器の演奏能力だけでなく、ピアノ伴奏者とのコミュニケーションや、毎回の授業における、言葉での説明の様子も加味して評価を行うことを適宜伝え、そのような方向で評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」の授業において、学生の状況に応じた曲目を選定し、アンサンブルの機会を作るようにする。
- ②「器楽」の授業で得られた学生の準備状況や希望を参考にして、「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」での指導を行う。
- ③管弦楽分野について学生が自学自習できるような資料の充実と利用促進を図る。
- ④授業での活動がより豊かな音楽体験となるよう、学内演奏会への出演をさらに促す。

2. 点検・評価

- ①「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」の授業において、学生の状況に応じた曲目を選定し、アンサンブルの機会を作った。
- ②「器楽」の授業で得られた学生の準備状況や希望を参考にして、「管弦打楽器演奏基礎」「管弦打楽器」での指導を行った。
- ③管弦楽分野について学生が自学自習できるような資料の充実と利用促進を図った。
- ④授業での活動がより豊かな音楽体験となるよう、学内演奏会への出演をさらに促した。
- ⑤音楽コースの管打楽器を演奏する学生を対象としたアンサンブルの会を催した。(12月12日)

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①徳島バロックアンサンブル、広島弦楽合奏団との連携により、従来からの研究テーマ「バロック音楽の研究」を継続して行なう。
- ②中国及び台湾の民族音楽専門家との連携により、民族音楽に於ける個々の楽器のための作品及び合奏作品について研究を進める。

2. 点検・評価

- ①徳島バロックアンサンブル、広島弦楽合奏団との連携により、従来からの研究テーマ「バロック音楽の研究」を継続して行なった。
- ②中国及び台湾の民族音楽専門家や民族楽団との連携により、民族音楽に於ける個々の楽器のための作品及び合奏作品について研究を進めた。
台湾：台北 琴園國樂團／桃園 桃園樂友絲竹室樂團／新竹 新竹市立國樂團
北京：中国北京海民／中国北京城南民／首民族

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

コース選出の就職委員会委員として、本学の運営に貢献する。
コース選出の予算財務管理委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

コース選出の就職委員会委員として、本学の運営に貢献した。
コース選出の予算財務管理委員会委員として、本学の運営に貢献した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①徳島市,広島市の音楽団体との交流を行う。(社会連携)
- ②台湾(台北市及び新店市)の民族楽団との交流を行う。中国(北京市)の民族楽団との交流を行う。(国際交流)

2. 点検・評価

- ①徳島市,広島市の音楽団体との交流を行った。(社会連携)
- ②台湾(台北市)の民族楽団との交流を行った。中国(北京市)の民族楽団との交流を行った。(国際交流)
台湾:台北 琴園國樂團／桃園 桃園樂友絲竹室樂團／新竹 新竹市立國樂團
北京:中国北京海民／中国北京城南民／首民族

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)